

## 厚木募集案内所の夏休み

自衛隊神奈川地方協力本部厚木募集案内所（所長 明神忠雄 3等海佐）は、8月8日（金）から22日（金）の間、広報官が交代で夏季休暇を取りながら、個別ガイダンスなどの広報活動を実施した。

ガイダンスには多くの参加者が訪れ、受験要領や各自衛隊の特色・職種等の説明に加え、懇談では勤務や生活に関する具体的な質問も寄せられ、活気あふれる時間となった。

また、お盆の時期には嬉しい来客もあった。厚木募集案内所から今年度入隊した幹部候補生や一般曹候補生、防衛医科大学校生のほか、一昨年に入学した防衛大学校生らが、夏季休暇を利用して事務所に立ち寄り、元気な姿を見せてくれた。彼らは笑顔で近況を語り、現在の生活やこれからの夢について楽しそうに話す様子が、対応した広報官の表情にも自然と笑みが広がった。

広報官たちは勤務と休暇を両立させながら、改めて広報官業務の「やりがい」を実感し、任務の重要性を再認識するなど、充実した夏休みを過ごすことができた。

厚木募集案内所は「これから国防の根底を支える広報官の責任と喜びを胸に、対象者ファーストの精神で募集広報活動に努め、自衛隊を職業の選択肢の一つとして考えてもらえるよう取り組んでいく」としている。



個別ガイダンス



来訪者①



来訪者②

## 清川村青龍祭で初の広報ブースを出展

自衛隊神奈川地方協力本部厚木募集案内所（所長 明神忠雄 3等海佐）は、8月9日（土）、清川村で開催された「青龍祭」において募集広報活動を実施した。

青龍祭は今年で39回目を迎える伝統ある祭りであり、今回、厚木管内募集相談員会の支援を得て、初めて募集広報ブースを出展した。

当日は真夏の強い日差しが照り付ける1日。清川村は標高600メートルを越えるため「きつと涼しいだろう」と広報官たちは期待していたが、会場に到着すると、口から出るのは「暑い」の言葉ばかり、そして流れるのは大量の汗だけという状況であった。それでも百戦錬磨の広報官たちは「迅速に準備を進め、予定より早くブースをオープンさせた。

募集広報ブースは祭り本番前から子どもたちが「あ、自衛隊だ！」と駆け寄り、大いに賑わった。F-4EJ戦闘機の操縦桿とスロットル展示コーナーでは、「触っていい?」「操縦してみよう!」といった声が上ががり、特に子どもたちに大人気となった。また、4種類の青龍祭限定デザインを用意した缶バッジ作成コーナーでは、参加者が好みのデザインを選んで作成し、「かわいい!」「すごい!」と喜びながら、服やカバンに付ける姿も見られた。

青龍祭フィナーレの「龍の昇天の儀式」と打ち上げ花火をもって募集広報活動も終了となったが、地域の方々は「頑張ってる!」「来年も待ってるよ!」といった温かい言葉が寄せられ、心まで熱くなる一日となった。

厚木募集案内所は「今後も地域のイベントを通じた募集広報活動を行い、地域社会における防衛基盤の確立と、自衛隊・自衛官への理解促進に努めていく」としている。



F-4 操縦桿



缶バッジ



フィナーレ